

Französische Suiten

Johann Sebastian Bach

J.S. バッハ 六つのフランス組曲より

第 6 番 ホ長調 BWV817

アルマンド (*Allemande*)

クーラント (*Courante*)

サラバンド (*Sarabande*)

ガボット (*Gavotte*)

ポロネーズ (*Polonaise*)

メヌエット (*Menuet*)

ブーレ (*Bourrée*)

ジーク (*Gigue*)

解説付き

●フランス組曲について

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach, 1685- 1750 年) が作曲したクラヴィーアのための曲集 フランス組曲 BWV812-817 (*Französische Suiten BWV 812-817*) は、バッハがケーテンで過ごした 1722 年から 1723 年頃に作曲されたと考えられています。

この時期、バッハは先妻であるマリア・バルバラ・バッハを亡くし、2 度目の妻アンナ・マグダレーナ・ヴィルケと結婚しましたが、その時期の作品と推定されています。

「フランス組曲」というタイトルは、バッハ自身が付けたのではなく、後に付けられたものです。誰がどういう理由でつけたのかは不明ですが、曲調がフランス風であるからとか「イギリス組曲」との区別のためにバッハの息子たちが便宜的に付けたという節もあります。組曲は、いくつかの舞曲をひと組にまとめた構成となっています。

●第 6 番 ホ長調 BWV817

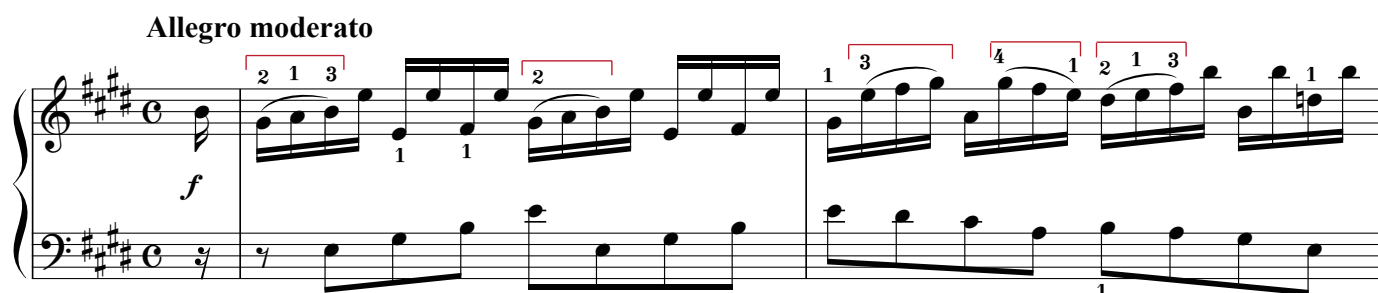
アルマンド (*Allemande*)

8 つの舞曲から構成されている第 6 番は、フランス組曲全 6 曲の中で最も規模が大きく、おそらく最も遅く作られたと思われる曲です。

冒頭のアルマンドは、明朗な曲となっています。*Allemande* (仏) は、「ドイツ風」の意味です。16 世紀のフランスでは「地面に足をつけた中庸の遅さ」の 2 拍子のダンスでしたが、17 世紀には作曲家によってテンポに、ある程度の自由度がある 4 拍子の舞曲にされました。

テンポや強弱を表記していない楽譜が多いと思いますが、参考程度に記させていただきました。テンポは、*Allegro moderato*。強弱は、全体に *f* 気味に記しましたが力まずに演奏して下さい。

冒頭の右手の十六分音符のフレーズが、この曲のモチーフの一つとなります。全体にフレーズ表記致しました。左手の八分音符は、フレーズ表記していない箇所はノンレガートで演奏下さい。



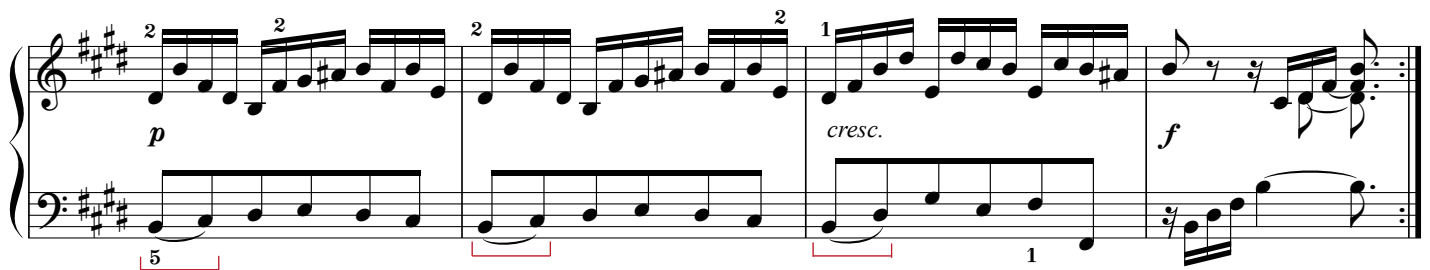
クーラント (*Courante*)

古いフランスの社交舞踏から由来した活発な舞曲です。バロック時代の組曲では一般にアルマンドとサラバンドの間におかれます。

クーラント（フランス語：courante）は、コレンテ（イタリア語：corrente）とも言います。フランスタイプのクーラントとイタリアタイプのコレンテに分かれます。フランスタイプのクーラントは2分の3拍子または4分の6拍子の交代を伴う舞曲であるのに対し、イタリアタイプのコレンテは4分の3拍子の単純拍子でよりテンポが速い舞曲となっています。第6番のクーラントはイタリアタイプとなります。（第2, 4, 5, 6番は、イタリアタイプ。第1, 3番はフランスタイプとなりますが、第1番は2分の3拍子、第3番は4分の6拍子で書かれています。）

テンポは *Allegro vivace* が適当と思います。

左手の八分音符のフレーズは、フレーズ表記のない箇所はノンレガートで奏して下さい。8ページ4段3小節～5段3小節、それから、9ページ4段3小節～5段3小節は以下のように指示させて頂きましたが、演奏者によりフレーズの取り方は様々だと思います。参考にさせて頂けたらと思います。



サラバンド (Sarabande)

サラバンド（フランス語：sarabande、イタリア語：sarabanda サラバンダ）とは、3拍子による荘重な舞曲です。組曲の中で、最も遅い舞曲となっています。

サラバンドの一般的なりズム型は、 $\frac{3}{4}$ ♩ ♩ ♩ | ♩ ♩ | となります。

特徴として、重々しい3拍子のリズムであるという点（4分の3拍子あるいは2分の3拍子）以外に4小節単位の小楽節2つからなる8小節分の大楽節である事。上記リズム型の第2, 3拍でアウフタクトとして、次の小節の第1拍につなげるというリズムも特徴と言えます。

装飾音の指示は、楽譜、演奏者により様々だと思います。

3段目1小節のシュライファー（独）は、以下のように演奏下さい。



3段目4～5小節のアッポジトゥーラ (appoggiatura(伊))(またはフォアシュラーク(独))は、以下のように演奏下さい。

